

研究室だより

(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

- 川端康雄教授は、4 月、大学院文学研究科英文学専攻主任に就任。
- 佐藤和哉教授は、4 月、文学部英文学科長に就任。
- 藤永康政氏は、4 月、准教授に就任。
- アン・スレイター氏は、4 月、教授に昇任。
- 川端康雄教授は、4 月、日本ヴィクトリア朝文化研究学会会長に就任。
- 川端康雄教授は、4 月、日本ワイルド協会理事に就任。
- 佐藤和哉教授は、4 月、日本ヴィクトリア朝文化研究学会事務局長に就任。
- 早野薫准教授は、4 月、社会言語科学会の大会委員に就任。
- 高梨博子准教授は、4 月 1 日から 3 月 31 日まで、カリフォルニア大学サンタバーバラ校大学院言語学科にて研修。
- 高梨博子准教授は、4 月 22 日から 23 日まで、Conference on Language, Interaction, and Culture (CLIC) 第 22 回大会 (於カリフォルニア大学ロサンゼルス校、アメリカ合衆国) に出席。
- 馬場聡准教授は、4 月、美術展「シンデレラの世界展——アメリカに渡ったシンデレラ・ストーリー」(於千代田区立日比谷図書文化館) を学術監修。
- 馬場聡准教授は、4 月、『リチャード・アンドレのシンデレラ』(アトランスチャーチ) を翻訳出版。
- 馬場聡准教授は、4 月、『ウォルター・クレインのシンデレラ』(アトランスチャーチ) を翻訳出版。
- 馬場聡准教授は、4 月、『シンデレラの世界展: アメリカに渡ったシンデレラ・ストーリー: かわたまさんおコレクション: ブックレット』(於千代田区立日比谷図書文化館) を監修・解説執筆。
- 藤永康政准教授は、4 月 7 日から 10 日まで、Organization of American Historian Annual Meeting での国際委員会年次ミーティングに出席のためアメリカ合衆国ロードアイランド州プロヴィデンスへ海外出張。
- ダグラス・フォースター准教授は、4 月 30 日、“The Benefits of Extensive Reading”を IAFOR The Asian Conference on Language Learning (acll2016) (於神戸芸術センター) にて Joseph Poulshock 氏と共同で口頭発表。
- 川端康雄教授は、5 月 1 日、「「真なるものはつくられたもの」」を『日本ヴィクトリア朝文化研究学会 Newsletter』第 15 号に執筆。
- 高梨博子准教授は、5 月 7 日から 8 日まで、Annual Workshop on American Indigenous Languages (WAIL) 第 19 回大会 (於カリフォルニア大学サンタバーバラ校、アメリカ合衆国) に出席。
- 高梨博子准教授は、5 月 16 日、“The ‘Let’s Laugh It Off Together’ Spirit in Japanese Humor”を New Adventures with Indigenous Languages Group (NAIL) Meeting (於カリフォルニア大学サンタバーバラ校、アメリカ合衆国) にて招待発表。

- ダグラス・フォースター准教授は、5月21日、“Using Scrum Principles in the EFL Classroom”をJALT Pan-SI 2016年度大会（於名城大学）にてJoseph Poulshock氏と共同で口頭発表。
- 佐藤和哉教授は、5月29日、「英文学教育への視聴覚教材の導入についての提言」を日本英文学会第88回大会 シンポジウム「英語力向上と文学教材」（於京都大学）にて司会および口頭発表。
- 川端康雄教授は、6月、展覧会評「バーン＝ジョーンズ展」を『三菱一号館美術館 研究紀要』第2号に執筆。
- 馬場聡准教授は、6月4日、「レクチャー & トーク・セッション——シンデレラと出版文化」を日比谷カレッジ（於千代田区立日比谷図書文化館）にて講演。
- 川端康雄教授は、6月11日、日本ロレンス協会第35回大会（於松山大学榎笠キャンパス）にてシンポジウム「マモン神に抗って——モリス、ロレンス、オーウェル」の講師を務め、「ポール・モレルの「レッサー・アーツ」——ウィリアム・モリスからD・H・ロレンスへ」を口頭発表。
- 藤井洋子教授は、6月14日から20日まで、Sociolinguistic Symposium に出席、研究発表のため、スペイン、ムルシアへ海外出張。6月17日、“Ba-Oriented Representations of the World: from Clause Structures to Interaction”をコロキウム“Tracing Sociocultural and Perceptual Schemas of Non-Western Interactional Practices”にて口頭発表。
- 高梨博子准教授は、6月15日から18日まで、Sociolinguistic Symposium (SS) 第21回大会（於ムルシア大学、スペイン）に出席および研究発表のため、スペイン、ムルシアへ海外出張。6月17日、“Affective Stancetaking in Humorous Meaning-Making: The Emergence of Funniness through Context”をコロキウム“The Discursive Art of ‘Bonding through Context’: Rethinking Interactional Alignment”にて口頭発表。
- 鈴木喜和准教授は、6月18日、「Keats: “Ode on Melancholy”——憂鬱のトポグラフィー」を第35回イギリス・ロマン派講座（於早稲田大学）にて講演。
- 坂田薫子教授は、6月25日、日本オースティン協会第10回大会（於東京女子大学）にて研究発表の司会を務める。
- 川端康雄教授は、7月、書評「稀代の工匠の全体像描く——蛭川久康著『評伝ウィリアム・モリス』」を『産経新聞』2016年7月24日号に執筆。
- 馬場聡准教授は、7月、「プリンス & プリンセス展——語り継がれる幸せの言葉」（於東京富士美術館）を学術監修。
- 馬場聡准教授は、7月、『フレデリック・アンド・ワーン社の白雪姫』および『エドワード・カルヴァートの眠れる森の美女』（アトランスチャーチ）を監修・解説執筆。
- 早野薫准教授は、7月、“Subjective assessments: Managing territories of experience”を *Accountability in Social Interaction* (Oxford University Press) に執筆。
- 川端康雄教授は、7月1日、日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画／

一般財団法人ラスキン文庫（共催）のセミナー“John Ruskin and Cultural Tourism”（A Special Lecture by Prof. Keith Hanley 於日本女子大学目白キャンパス新泉山館）にて司会を務める。

- 松森晶子教授は、7月3日、“Reconstruction of the accentual system of Proto-Northern Ryukyuan.”を The Symposium: Japanese and Korean Accent: Diachrony, Reconstruction, and Typology.（於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、7月6日、“Dreams, Memories, Journeys: Stories of a Tibetan Family”をマルチメディアプレゼンテーションおよびサイン会（於 The Rubin Museum of Art, New York City）にて口頭発表。また発表に関連した小冊子“Travels Within and Without”を出版。
- 英語英文学会主催の夏季講演会が、7月14日、開催された。講師はスーザン・マッキーカリス氏（フルブライト研究員）。演題は“‘It’s all about the likes.’ U.S. Female college students’ use of Instagram and the ‘thin ideal’ in social media.”
- 馬場聡准教授は、7月16日、「アンティーク絵本の愉しみ」を東京富士美術館にて講演。
- 馬場聡准教授は、8月、「時をかけるシンデレラ」を『聖教新聞』（8月10日号）に執筆。
- 馬場聡准教授は、8月、「物語空間としての郊外住宅地」を『ディズニーマン10月号』（講談社）に執筆。
- 藤井洋子教授は、8月23日、24日、ミスター・オー・コーパス研究 & 中国語データ分析ワークショップ（2016年度日本女子大学特別重点化資金 & 科学研究費基盤研究B（15H03208）共催）（於日本女子大学）にて司会を務める。
- 小林かおり助手は、8月23日、「日英語会話におけるバックチャネルの使い分け——会話参加者の社会的関係が与える影響——」をミスター・オー・コーパス研究 & 中国語データ分析ワークショップ（於日本女子大学）にて口頭発表。
- 町沙恵子助教は、8月24日、「繰り返しのメカニズムから見る会話の志向——日英語比較研究——」をミスター・オー・コーパス研究 & 中国語データ分析ワークショップ（於日本女子大学）にて口頭発表。
- 藤永康政准教授は、8月28日から9月3日まで、ニューヨーク市立図書館での資料収集のため、アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク市へ海外出張。
- 松森晶子教授は、8月30日、「琉球祖語アクセント再建に向けて——今、何を記述し、残しておくべきか」を国際日本文化研究センター第3回共同発表会（於国際日本文化研究センター）にて招待発表。
- 高梨博子准教授は、8月31日および9月3日、Societas Linguistica Europaea（SLE）第49回大会（於ナポリフェデリコ2世大学）に出席および口頭発表のため、イタリア・ナポリへ海外出張。8月31日、“Intersubjective Identity-Building through Stancetaking”を口頭発表。
- 藤井洋子教授は、9月、第37回研究大会シンポジウム報告「異文化理解のた

めの解放的語用論 3. 課題達成談話にみる自己と他者——日本語・英語・韓国語・タイ語の比較からの解放的語用論——」を『社会言語科学 第19巻 第1号』に執筆。

- 松森晶子教授は、9月、「八重山諸島黒島方言アクセントの仕組み——その韻律範疇 PWd と下がり目の出現条件——」を『言語研究』第150号（日本言語学会）に執筆。
- 高梨博子准教授は、9月、「遊びのフレームにおける間主観的個性の形成に関する考察——スタンステーキングの視点から——」を『社会言語科学』第19巻 第1号 特集「メタ・コミュニケーション——社会言語科学における共通基盤を求めて——」に執筆。
- 馬場聡准教授は、9月、「ウェスタンランドの文化史」を『ディズニーファン 11月号』（講談社）に執筆。
- 馬場聡准教授は、9月、『ELLE JAPON (エル・ジャポン)』（ハースト婦人画報社）10月号の特集「シンデレラの真実」を監修・執筆協力。
- 高梨博子准教授は、9月1日から2日まで、International Conference on Sociolinguistics (ICS) 第1回大会（於エトヴェシュ・ロラード大学、ブダペシュト、ハンガリー）に出席および口頭発表のため、海外出張。9月2日、“Inter-subjective Identity-Building through Language Practice of Play”を口頭発表。
- 大場昌子教授は、9月6日、日本ソール・ペロー協会第28回大会（於青山学院大学）にて研究発表の司会を務める。
- 大学院英文学専攻修士論文中間発表会が、9月15日、開催された。博士課程前期2年次3名が修士論文の中間発表を行った。
- 大場昌子教授は、9月29日から10月6日まで、ウェルズリー・カレッジ学長就任式に出席、およびマウントホリヨーク・カレッジ訪問のため、アメリカ合衆国へ海外出張。
- アレックス・ワトソン講師は、9月30日、退職。
- 坂田薫子教授は、10月、インタビュー記事「英国の光と影をめぐる考察②——ロンドンの闇に蠢く、モンスターの系譜」（文・菅原幸裕）が『Men's Precious メンズプレシャス』（小学館）2016年秋号（2016年11月号）に掲載される。
- 馬場聡准教授は、10月、「樹上の子供たち——ツリーハウスの物語学」を『ディズニーファン 12月号』（講談社）に執筆。
- ダグラス・フォースター准教授は、10月1日、“Applying SCRUM Principles to ER Instruction”及び“Creating Masterful English through ER”をJALT 9th Extensive Reading Seminar（於南山大学）にて Joseph Poulshock 氏と共同で口頭発表。
- 馬場聡准教授は、10月2日、「追憶のアイリッシュ・ハイウェイ——9つの〈ダブリン〉をめぐるトラベログ」を日本アメリカ文学会第55回全国大会ワークショップ「アイリッシュ・アメリカンの世界」（於ノートルダム清心女子大学）にて口頭発表。

- 藤永康政准教授は、10月19日から26日まで、ブラック・パンサー党結党50周年記念行事での聞き取り調査のため、アメリカ合衆国カリフォルニア州オークランド市へ海外出張。
- アン・スレイター教授は、10月31日、エッセイ“Japan and the Happiness of Melancholy”を *The Huffington Post* に執筆。
- 佐藤達郎准教授は、10月31日、『甦るシェイクスピア没後四〇〇周年記念論文集』（日本シェイクスピア協会編、研究社）を編集。
- 川端康雄教授は、11月、『『希望の巡礼』のリズム——ウィリアム・モリスの1880年代』を『ヴィクトリア朝文化研究』第14号に執筆。
- 川端康雄教授は、11月、『ワイルド、モリス、ロマンスの精神』を『オスカー・ワイルド研究』第15号に執筆。
- 坂田薫子教授は、11月、『マグルの階級と魔法界の階級——『ハリー・ポッター』のイギリス』を『ユリイカ』（青土社）第47巻18号（2016年12月号）に執筆。
- 藤井洋子教授は、11月4日から6日まで、The Discourse and Cognitive Linguistics Society の 2016 Fall DISCOG Conference に出席、基調講演のため、韓国・ソウルに海外出張。11月5日、“Culture and Language Practices: A Cross-Linguistic Study of Task-Based Interaction in Korean, Japanese, English, Thai and Chinese”を基調講演。
- 坂田薫子教授は、11月5日、『トロイの矛盾——『はるか群衆を離れて』における表象としてのイギリス陸軍』を日本ハーディ協会第59回大会（於同志社大学）にて口頭発表。
- 三神和子教授は、11月5日、『マオリとパケハの共生を願って——ケリー・ヒュームの先駆者としてのキャサリン・マンスフィールド』をオーストラリア・ニュージーランド文学会秋季大会（於立命館大学）にて講演。
- 川端康雄教授は、11月6日、『ジョージ・オーウェルのディストピアン・フィクション』を大東文化大学大学院文学研究科英文学専攻第11回英文学シンポジウムにて招待講演。
- アン・スレイター教授は、11月10日、“Journeys to Japan”を Princeton Club of Japan and the Asian American Alumni Association of Princeton (A4P) 主催のイベントで口頭発表。
- 英語英文学会の秋季講演会が、11月10日、開催された。講師は武藤浩史氏（慶應義塾大学教授）。演題は「ビートルズとは何だったのか」。また、大学院生2名による研究発表も行われた。発表者は、アメリカ文学から博士課程後期1年井上亜紗。発表タイトルは {Writing Biography of the Other in Autobiography 自伝のなかに他者の伝記を書くこと—*Humboldt's Gift*—}。イギリス文学より博士課程後期3年藤田葵。発表タイトルは “Kimono and It's Femininity: In the Late 19th Century and the Beginning of the 20th Century”。講演と発表に先立ち、平成28年度 E. G. フィリップス賞の授与式が行われた。受賞者は3年次荒木真由子、石松千明、4年次今関ちひろ、後藤亜耶。

- 高梨博子准教授は、11月16日から19日まで、American Anthropological Association (AAA) 第115回大会（於ミネアポリス、アメリカ合衆国）に出席、口頭発表、司会のため、海外出張。11月16日、“‘That’s So Like You!’: Metapragmatic Teasing Comments and Identity Construction”をセッション“Affect, Identity, and Language Ideologies”にて口頭発表。また同セッションの司会を務める。
- 川端康雄教授は、11月26日、日本ヴィクトリア朝文化研究学会第16回大会（於筑波大学東京キャンパス文京校舎）にてシンポジウム「ヴィクトリアニズムとモダニズム——分断と継承」の司会を務める。
- 藤永康政准教授は、11月26日、「モハメド・アリの生涯とその遺産——ブラック・パワー運動との関連で」を第8回アメリカの社会とポピュラー・カルチャー研究会（於立教大学）にて招待発表。
- 大学院英文学専攻課程協議会第50回研究発表会が、11月26日、聖心女子大学にて開催された。本学大学院より、博士課程前期2年押田昊子、博士課程後期1年阿部あかり、櫻田怜佳、3年鹿野浩子が発表。アドバイザーとして藤井洋子教授、鈴木喜和准教授が出席。
- 松森晶子教授は、12月、「三型アクセント記述研究の現在と未来——隠岐島の三型アクセントに焦点を当てながら——」を『音声研究』第20巻第3号（日本音声学会）に執筆。
- 坂田薫子教授は、12月3日、「ヘレン・ハンティンドン「謎」——『ワイルドフェル・ホール』の住人」のカントリーハウス描写が教えてくれること」を第126回十九世紀英文学研究会（於同志社女子大学）にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、12月11日、『『社会主義者のための歌』——モリスのコミットメントと運動歌をめぐる』をウィリアム・モリス研究会（意匠学会2016年度デザイン史分科会）（於大阪大学豊中キャンパス）にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、12月16日、『ウィリアム・モリスの遺したもの——デザイン・社会主義・手仕事・文学』（岩波書店）を出版。
- 川端康雄教授は、12月19日、「『現代バビロンの乙女御供』——ウィリアム・T・ステッドの少女売春反対キャンペーン」を要田圭治、田中孝信、原田範行共編『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』（彩流社）に執筆。
- 坂田薫子教授は、1月、『『はるか群衆を離れて』』についての10章』（音羽書房鶴見書店）を共著にて出版。
- 松森晶子教授は、1月、「北琉球におけるC系列2音節名詞の語頭音節の長音化——その原因について考える——」を『日本語の研究』第13巻1号（日本語学会）に執筆。
- 佐藤和哉教授は、2月、「大学の教室で『エセルとアーネスト』を読む」を『比較文学研究』第125号に執筆。
- 藤井洋子教授は、2月13日、「日本女子大学英文学科における英語科教育法」を2016年度学術交流シンポジウム「日本女子大学における教科教育法について——教育研究業績資源化への試み——」（文学部・文学研究科主催、日本女子大学教職教育開発センター共催）にて発表。

- 土屋智子講師は、2月26日から3月6日まで、資料収集のため、アメリカ合衆国ハワイへ海外出張。
- 川端康雄教授は、3月、「レイモンド・ウィリアムズ翻訳始末記」を『レイモンド・ウィリアムズ研究』第7号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ポール・モレルの「レッサー・アーツ」——ウィリアム・モリスからD・H・ロレンスへ」を『D・H・ロレンス研究』第26号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「キース・ハンリー教授講演「ジョン・ラスキンと文化的旅」をめぐって」を『ラスキン文庫たより』第73号に執筆。
- 藤井洋子教授は、3月、「「うるさい」と「Be quiet!」どう違う？——場中心と人間中心——」を『〈不思議〉に満ちたことばの世界』（中島平三先生退職記念企画）（開拓社）に執筆。
- 三神和子教授は、3月、「キャサリン・マンスフィールドにおけるパケハ批判」、「新生ニュージーランドを目差して——ケリー・ヒュームの『ボーン・ピープル』」を『オーストラリア・ニュージーランド文学論集』に執筆、および『オーストラリア・ニュージーランド文学論集』（彩流社）を編集出版。
- 三神和子教授は、3月、「キャサリン・マンスフィールドのニュージーランド像」を『南半球評論』32号（オーストラリア・ニュージーランド文学会）に執筆。
- 馬場聡准教授は、3月、『衣装のアメリカ文学』（金星堂）を共著にて出版。
- 鈴木喜和准教授は、3月、「Keats, Zimmerman, and the Sympathetic Solitude」を『知の冒険——イギリス・ロマン派文学を読み解く』（音羽書房鶴見書店）に執筆。
- 松森晶子教授は、3月、「長崎県西彼杵郡旧・外海町のアクセント体系とその複合語規則」を『日本女子大学紀要文学部』第66号に執筆。
- 三神和子教授は、3月、「肉食とヴェジタリアニズム：キャサリン・マンスフィールドの『ドイツの宿にて』」を『日本女子大学紀要文学部』第66号に執筆。
- 佐々木周子助手は、3月、「Ernest Hemingway の作品における無意識の描かれ方：「キリマンジャロの雪」と『老人と海』の場合」を『日本女子大学紀要文学部』第66号に執筆。
- 坂田薫子教授は、3月、「ヘレン・ハンティンドンの「謎」——『ワイルドフェル・ホール』の住人』のカントリーハウス描写が教えてくれること」を『英米文学研究』第52号に執筆。
- ダグラス・フォースター准教授は、3月、「Using Scrum Principles in the EFL Classroom」を『英米文学研究』第52号に執筆。
- 佐々木周子助手は、3月、「A Study of the Doctor-patient Relationship in F. Scott Fitzgerald's *Tender Is the Night*: A Psychological Approach」を『英米文学研究』第52号に執筆。
- 高梨博子准教授は、3月3日、「Stancetaking and the Co-Construction of Iden-

tity in Teasing Interaction”を Language, Interaction, and Social Organization (LISO) Proseminar (於カリフォルニア大学サンタバーバラ校、アメリカ合衆国)にて招待発表。

- 坂田薫子教授は、3月11日、「英米文学分野の英語教育——英語教員育成への貢献」を日本女子大学文学部学術交流シンポジウム主催(英文学科企画)「日本女子大学英文学科から発信する英語教育: 英語教員育成の今後を考える」にてパネリストの一人として口頭発表。
- 藤井洋子教授は、3月11日、日本女子大学文学部学術交流シンポジウム主催(英文学科企画)「日本女子大学英文学科から発信する英語教育: 英語教員育成の今後を考える」にて司会を務める。
- 松森晶子教授は、3月11日、「アクティブ・ラーニングのトピックを提供する英語指導——言葉への気づきを喚起する英語教育に向けて」を日本女子大学文学部学術交流シンポジウム主催(英文学科企画)「日本女子大学英文学科から発信する英語教育: 英語教員育成の今後を考える」にて口頭発表。
- 早野薫准教授は、3月11日、「英語教員に求められる文法力」を日本女子大学文学部学術交流シンポジウム主催(英文学科企画)「日本女子大学英文学科から発信する英語教育: 英語教員育成の今後を考える」にてパネリストの一人として口頭発表。
- 土屋智子講師は、3月11日、「アメリカ研究授業と英語教育: 英語教員育成への貢献」を日本女子大学文学部学術交流シンポジウム主催(英文学科企画)「日本女子大学英文学科から発信する英語教育: 英語教員育成の今後を考える」にて口頭発表。
- 早野薫准教授は、3月13日、「順番交替と認知的地位」を公開シンポジウムことば・認知・インタラクション5(於東京工科大学)にて講演。
- 川端康雄教授は、3月21日から30日まで、科研基盤研究(A)「新しいカルチュラルスタディーズの基礎理論構築」に係る調査のため、連合王国ロンドンへ海外出張。
- 早野薫准教授は、3月26日、エスノメソドロジー・会話分析研究会春の研究例会(於成城大学)にて、特別セッション「実践のなかの経験と知識——研究動向と展望」をパネリストとして講演。
- 佐々木周子助手は、3月31日、退職。